

最後まで読み切れなかった受験生も多かったと思います。 頭から読み落とす「速読」練習がますます必要となります。

「大学入学共通テスト」で平均点の中間集計が2024年1月17日発表され、「政経」と「英語・リーディング」はそれぞれ過去最低の得点となった。

各科目の平均点は、

100点満点の科目では英語・リーディングが53.28、英語・リスニングが68.50点。数学は数学I・A54.35、数II・B61.03だった。地理歴史は世界史B 63.03、日本史B58.03、地理B68.38で、公民は現代社会57.44、倫理57.09、政治・経済46.02。理科の専門4科目は、物理64.38、化学56.86、生物55.72、地学58.81だった。

200点満点の国語は115.73 (57.86%)で、50点満点の理科基礎4科目は、物理基礎30.91、化学基礎28.91、生物基礎32.71、地学基礎36.71

***英語・国語のリーディングで平均点が50%台はかなりの難問です。**

「英語・国語」の速読を促進している「日本速読協会」の資料によれば、2024年（令和6年）大学入学共通テスト文字数・単語数は、

【英語】※リーディング

第1問約645語、第2問約890語、第3問約854語、第4問約831語、第5問約1,219語、第6問約1,853語で、**合計約6,292語**

全体の語数は昨年度よりも150語以上増加。3年連続で6,000語を超える形となり、センター試験時代の約1.5倍の語数での出題が定着したと言えそうです。出題形式や配点の変更はないものの、難易度は昨年度よりやや難化。英文をスピーディーに読み取ったうえで、複数の情報源から解答を導き出す力が必要とされます。



【国語】

第1問約8,300文字、第2問約8,121文字、第3問4,638文字、第4問約3,076文字で、
合計約 24,135 文字

文字数は昨年並み。大問数は変更なく、設問数 1 つ減、マーク数 1 つ増。出題意図が明確な問題が多かったものの、昨年同様複数の文章や資料を関連付けて答えを導き出す力が必要でした。全体としての難易度は昨年並みといえますが、表現力を問う問題も出ており、情報を整理してアウトプットする時間の確保のため、速く正確に読み解く力は必須といえるでしょう。



*資料は「SRJ, 日本速読協会」様の資料を引用しています。

では、どうしたらいいのでしょうか？

英語・国語の
『速読』コースを受講
①通学か
②自宅でオンラインで

詳しくはこちらから

英語アカデミーの
「高校生英語ゼミ・クラス」 1年、2年
ここでは最初に毎回「英語速読」を練習します。

詳しくはこちらから